

## 平成25年横浜港の港勢

### 入港船舶

		単位	25 年	前年比	構成比	24 年	前年比	構成比
総 数	隻 数	隻	37,706	101.8	100.0	37,047	99.5	100.0
	総トン数	総トン	271,276,977	99.1	100.0	273,870,015	99.1	100.0
外 航 船	隻 数	隻	9,970	96.7	26.4	10,313	96.3	27.8
	総トン数	総トン	228,007,909	98.4	84.0	231,686,787	97.6	84.6
うち フルコンテナ船	隻 数	隻	4,789	94.0	48.0	5,097	94.6	49.4
	総トン数	総トン	115,907,526	94.8	50.8	122,284,586	92.2	52.8
内 航 船	隻 数	隻	27,736	103.7	73.6	26,734	100.7	72.2
	総トン数	総トン	43,269,068	102.6	16.0	42,183,228	108.4	15.4

### 海上出入貨物

		単位	25 年	前年比	構成比	24 年	前年比	構成比
総 数	貨 物 量	トン	119,171,168	98.2	100.0	121,387,750	100.1	100.0
	うちコンテナ貨物量	トン	42,054,075	94.7	35.3	44,403,399	95.2	36.6
	コンテナ個数	TEU	2,888,220	94.6	100.0	3,052,775	99.0	100.0
外 貿	計	トン	74,407,937	95.5	62.4	77,902,749	96.5	64.2
	輸 出	トン	31,462,625	95.0	26.4	33,126,805	93.1	27.3
	輸 入	トン	42,945,312	95.9	36.0	44,775,944	99.2	36.9
うち コンテナ貨物	計	トン	39,519,431	94.5	53.1	41,820,370	94.5	53.7
	輸 出	トン	17,449,739	91.2	55.5	19,136,220	90.6	57.8
	輸 入	トン	22,069,692	97.3	51.4	22,684,150	98.1	50.7
コンテナ個数	計	TEU	2,588,074	94.8	89.6	2,731,231	97.4	89.5
	輸 出	TEU	1,388,456	94.7	48.1	1,465,718	97.9	48.0
	輸 入	TEU	1,199,618	94.8	41.5	1,265,514	97.0	41.5
内 貿	計	トン	44,763,231	102.9	37.6	43,485,001	107.2	35.8
	移 出	トン	17,844,119	103.6	15.0	17,232,341	102.9	14.2
	移 入	トン	26,919,112	102.5	22.6	26,252,660	110.2	21.6
うち コンテナ貨物	計	トン	2,534,644	98.1	5.7	2,583,029	107.3	5.9
	移 出	トン	1,363,398	97.2	7.6	1,402,424	111.6	8.1
	移 入	トン	1,171,246	99.2	4.4	1,180,605	102.7	4.5
コンテナ個数	計	TEU	300,147	93.3	10.4	321,544	114.6	10.5
	移 出	TEU	114,855	102.0	4.0	112,620	110.5	3.7
	移 入	TEU	185,292	88.7	6.4	208,924	117.0	6.8

(注) コンテナ個数は、実入・空の合計。

「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貿又は内貿の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

### 貿易額

		単位	25 年	前年比	構成比	24 年	前年比	構成比
合 計		百万円	10,921,656	104.6	100.0	10,444,353	96.9	100.0
輸 出		百万円	6,747,976	99.6	61.8	6,778,447	96.7	64.9
輸 入		百万円	4,173,680	113.9	38.2	3,665,906	97.1	35.1

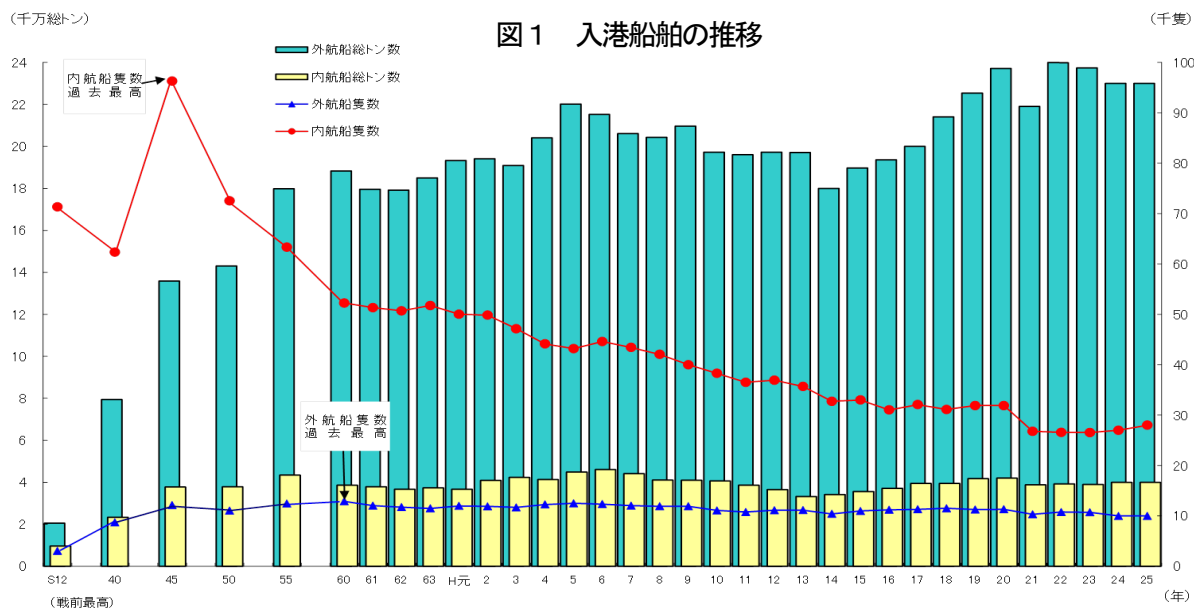
(注) 横浜税関資料による(確定値)。

平成25年の横浜港の総貨物量は、1億1,917万トン（前年比1.8%減）で、前年に比べ微減となりました。内貿貨物は増加したものの、外貿貨物が、輸出3,146万トン（5.0%減）、輸入4,295万トン（4.1%減）と、共に前年を下回ったことが影響しています。一方、円安基調や堅調な米国経済を背景に、同国向けの完成自動車が好調だったほか、9月以降、横浜港にとって最大の貿易相手国である中国向けの自動車関連貨物が回復に転じるなど、明るい兆しも見られた一年となりました。

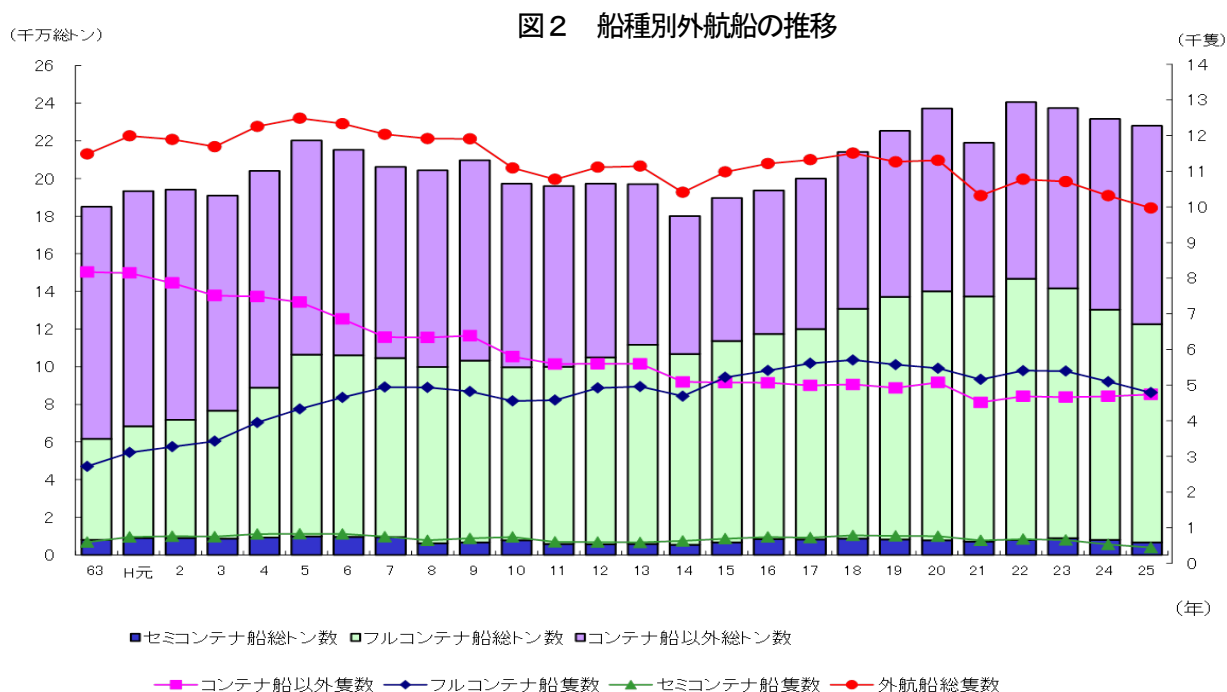
コンテナ取扱個数は、外貿・内貿合計で289万TEU（5.4%減）となっています。

## 1 入港船舶 【P 9】

入港隻数は外航・内航合計で3万7,706隻（前年比1.8%増、以下増減%は前年比）となり、3年ぶりに増加に転じました。総トン数は2億7,128万総トン（0.9%減）となり、3年連続で減少しています。



外航船の入港隻数は9,970隻（3.3%減）、総トン数は2億2,801万総トン（1.6%減）となりました。このうちフルコンテナ船は4,789隻（6.0%減）、総トン数は1億1,591万総トン（5.2%減）となっています。内航船の入港隻数は2万7,736隻（3.7%増）、総トン数は4,327万総トン（2.6%増）となりました。

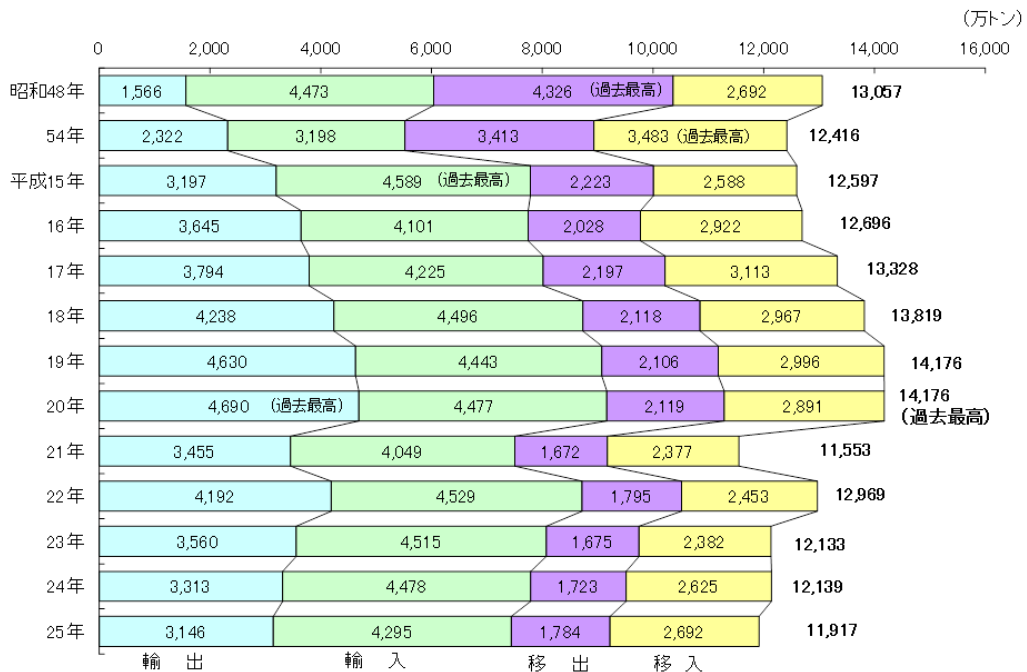


## 2 海上出入貨物

### (1) 総貨物量 … 2年ぶりに減少、内貨は好調だったものの、外貨が振るわず微減 【P14、15】

外貨貨物量は7,441万トン(4.5%減)、内貨貨物量は4,476万トン(2.9%増)、総貨物量では1億1,917万トン(1.8%減)となりました。中国向け貨物の取扱いが振るわなかったこともあり、前年に比べ、微減となっています。

図3 海上出入貨物の推移



### (2) 輸出貨物 … 前年比5.0%減で3年連続の減少、中国向け貨物の大幅減が影響 【P14～16】

輸出貨物量合計は3,146万トン(5.0%減)で、3年連続の減少となりました。

品種別にみると、第1位の「完成自動車」は1,074万トン(1.0%減、構成比34.1%)、第2位の「自動車部品」は561万トン(3.1%減、構成比17.8%)、第3位の「産業機械」は270万トン(15.5%減、構成比8.6%)となり、上位10品種のうち6品種が前年を下回っています。

国別にみると、第1位の中国が、完成自動車及び産業機械などの取扱いで大きく落ち込んだことから、587万トン(20.6%減、構成比18.7%)で3年連続の2桁減となりました。

図4 主要品種別輸出貨物

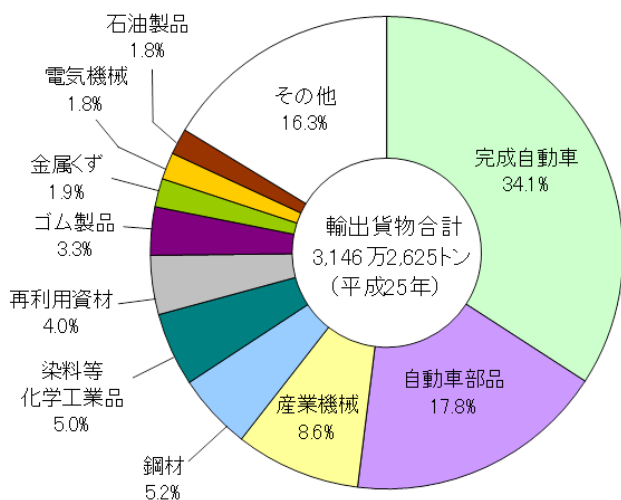
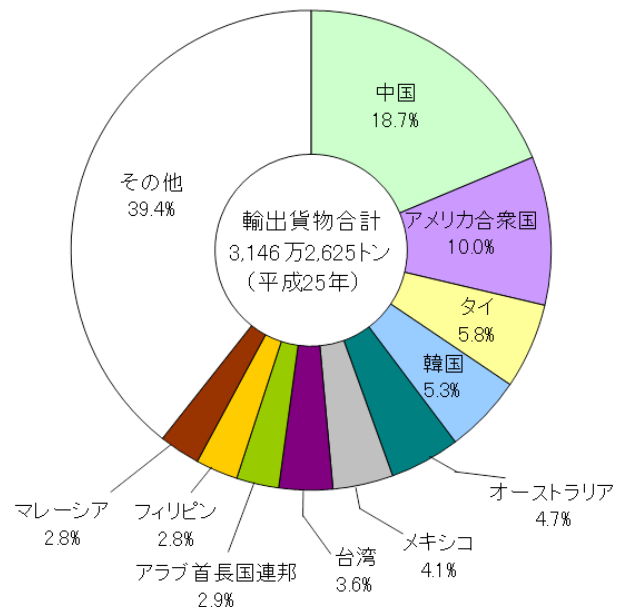


図5 主要国別輸出貨物



(3) 輸入貨物 … 前年比4.1%減で3年連続の減少、LNGは4年連続の増加 【P14～16】

輸入貨物量合計は4,295万トン(4.1%減)で、輸出貨物と同様、3年連続の減少となりました。

品種別にみると、第1位の「LNG(液化天然ガス)」は863万トン(4.7%増、構成比20.1%)で、4年連続増加し、輸入貨物量全体の5分の1を占めるまでになっています。第2位の「原油」は448万トン(16.3%減、構成比10.4%)、第3位の「衣服・身廻品・はきもの」は175万トン(2.4%増、構成比4.1%)となっています。

国別にみると、第1位の中国は809万トン(3.0%減、構成比18.8%)、第2位のオーストラリアは469万トン(6.9%減、構成比10.9%)で前年を下回りましたが、第3位のマレーシアはLNGなどの取扱いが増加し、463万トン(2.7%増、構成比10.8%)で前年を上回りました。

図6 主要品種別輸入貨物

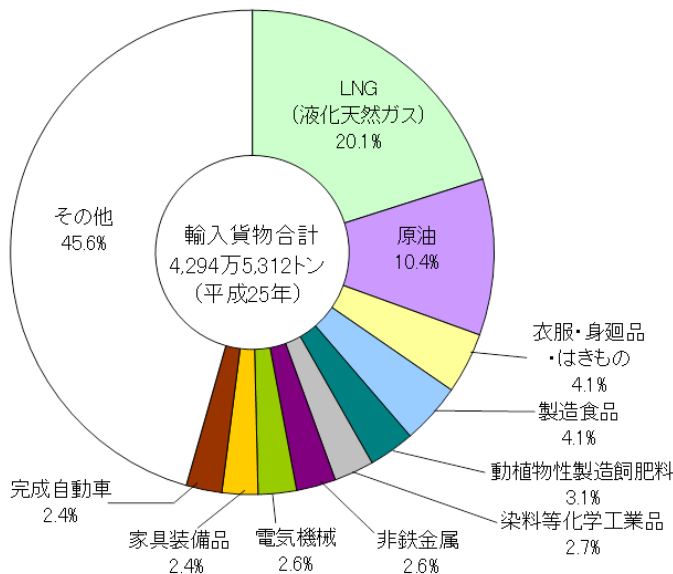
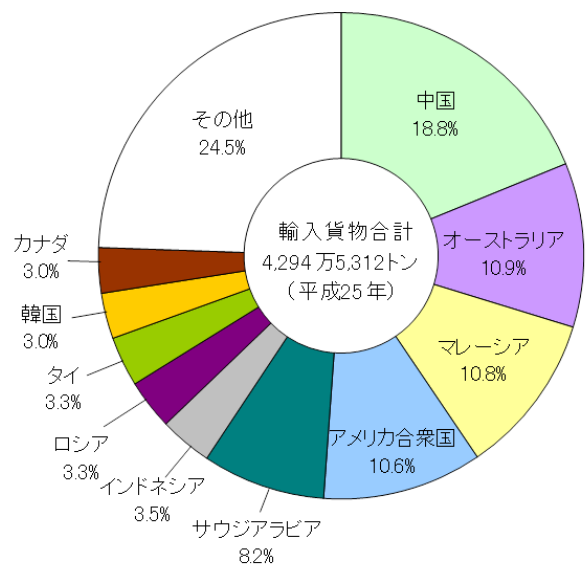


図7 主要国別輸入貨物



(4) 内貿貨物 【P14、15、18】

移出入貨物量合計は4,476万トン(2.9%増)で、2年連続の増加となりました。

品種別にみると、移出第1位の「石油製品」は406万トン(40.2%増、構成比22.7%)、移入第1位の「原油」は1,005万トン(16.8%増、構成比37.3%)となっています。

港別にみると、移出第1位の千葉港は368万トン(17.5%増、構成比20.6%)で「石油製品」の取扱いが最も多く、移入第1位の喜入港は1,005万トン(16.8%増、構成比37.3%)で「原油」のみの取扱いとなっています。

図8 主要品種別移出貨物

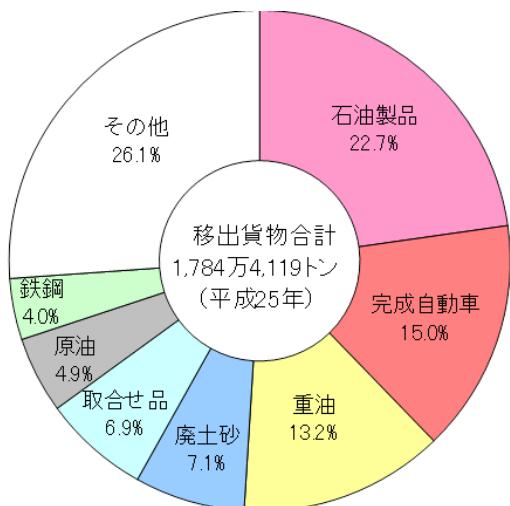


図9 主要港別移出貨物

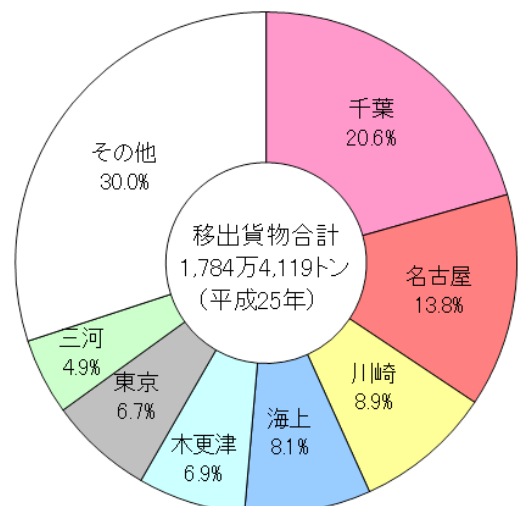


図10 主要品種別移入貨物

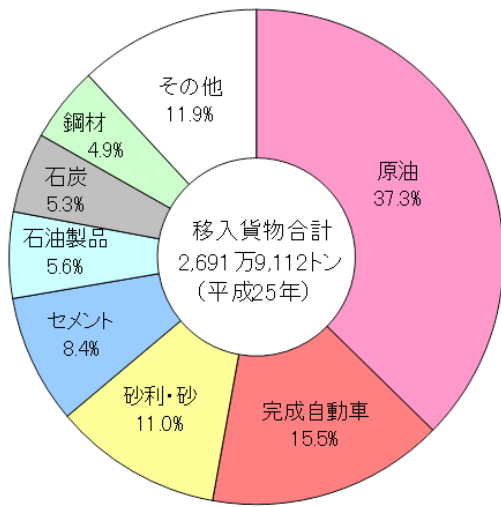
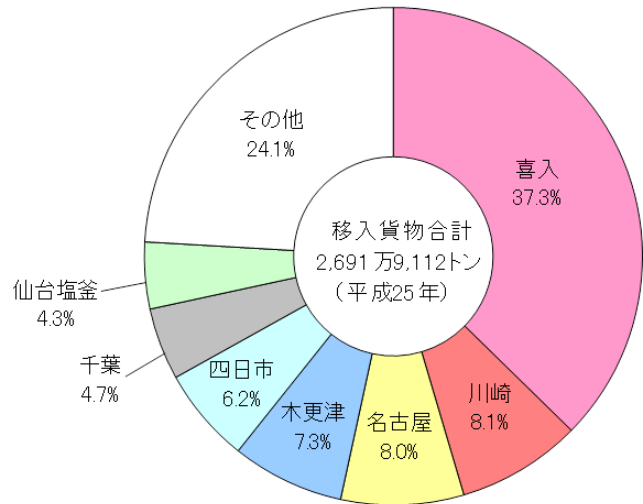


図11 主要港別移入貨物



(5) コンテナ貨物 … 外貿貨物に占めるコンテナ貨物の割合、10年連続で5割超え 【P14、15、25】

外貿コンテナ貨物量は、輸出が1,745万トン(8.8%減)、輸入が2,207万トン(2.7%減)、輸出・輸入合計では3,952万トン(5.5%減)で、3年連続の減少となりました。

外貿貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は53.1%で、10年連続で5割を超えています。

図12 外貿貨物量の推移

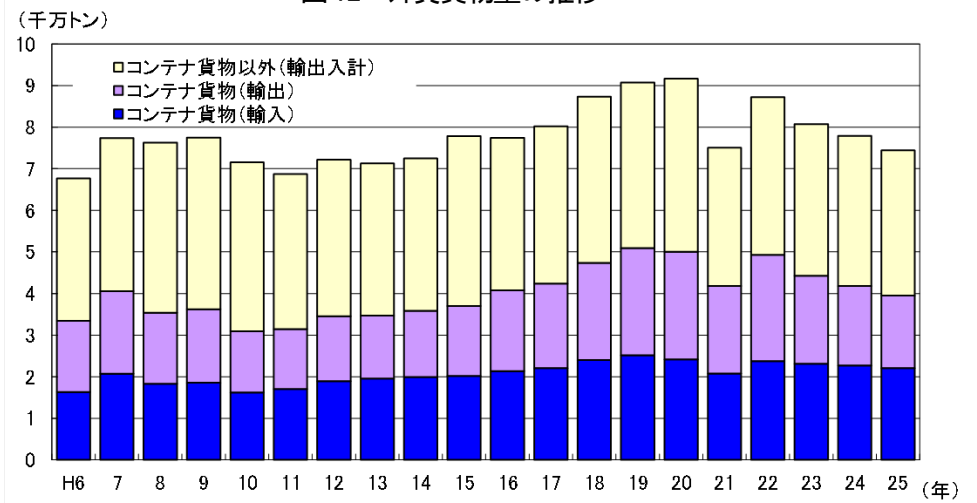
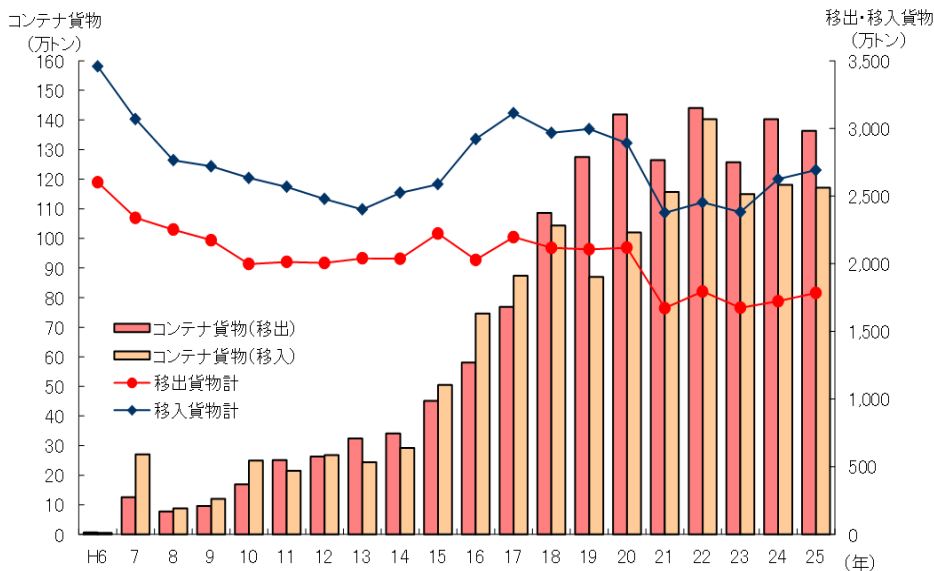


図13 内貿貨物量の推移



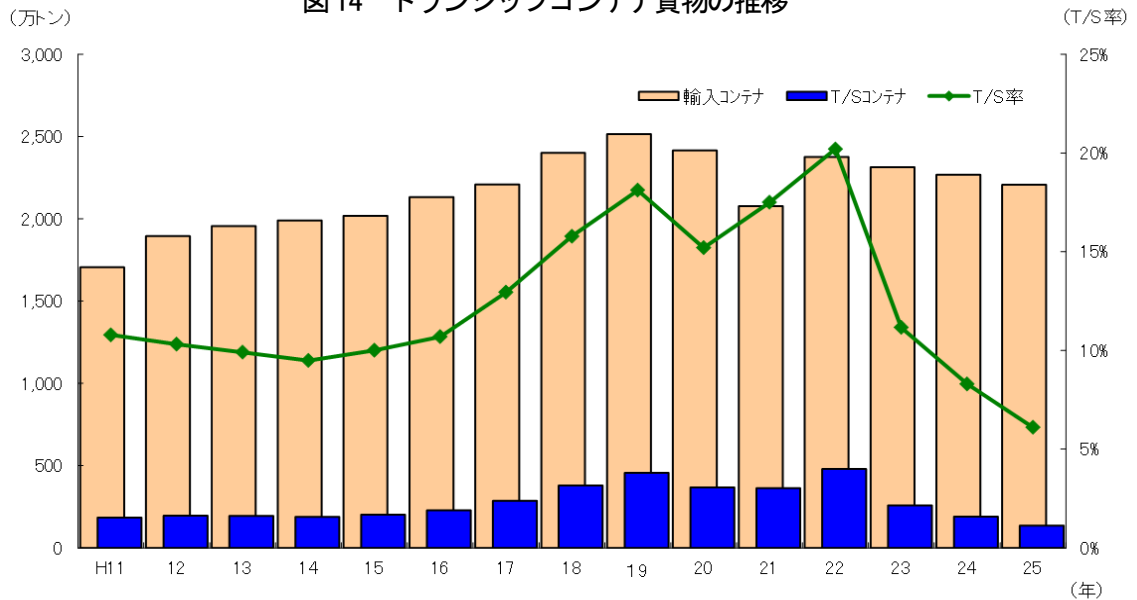
内貿コンテナ貨物量は、移出が136万トン(2.8%減)、移入が117万トン(0.8%減)、移出・移入合計では253万トン(1.9%減)で、2年ぶりの減少となりました。

前年に比べ、東京港との取扱いが、大きく下回ったことなどが要因となっています。

(6) トランシップコンテナ貨物 【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は135万トン、トランシップ率は6.1%で、3年連続の減少となりました。

図14 トランシップコンテナ貨物の推移



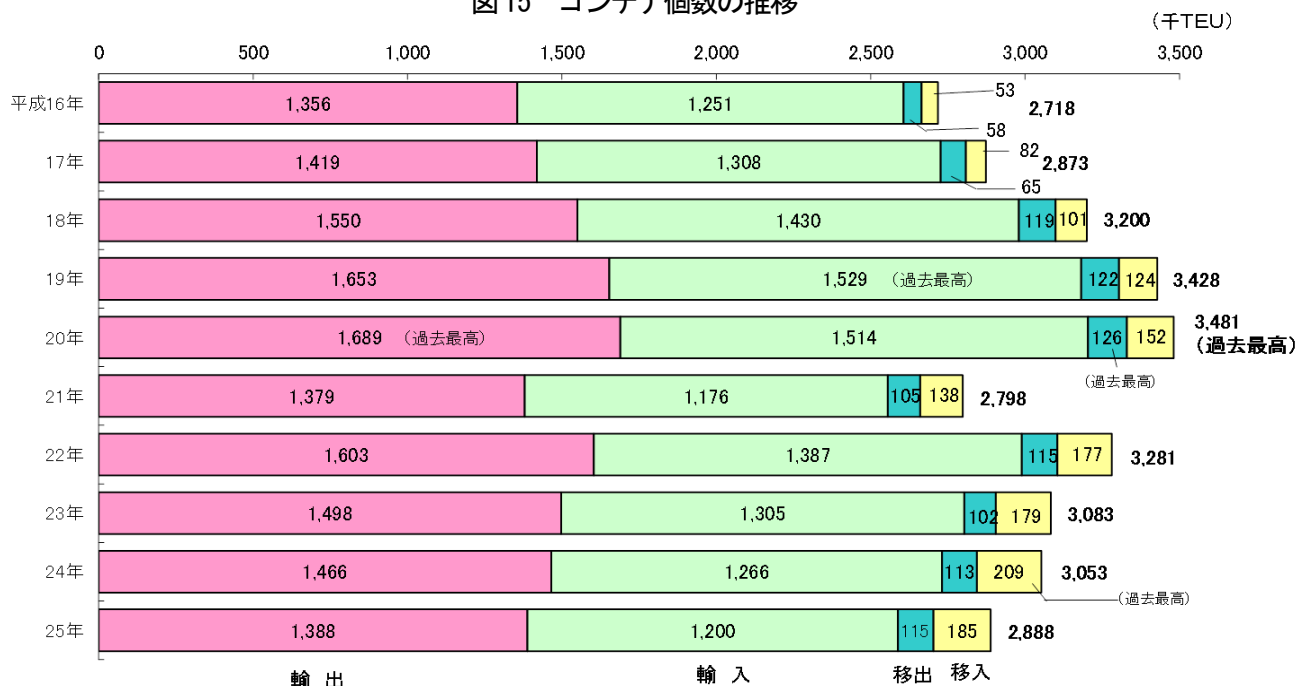
(7) コンテナ個数 … 前年比5.4%減で289万TEU、4年ぶりに300万TEUを下回る【P20、21、22、48】

外貿・内貿合計は289万TEU (5.4%減) で、3年連続の減少となりました。

外貿コンテナ個数は、輸出が139万TEU (5.3%減)、輸入が120万TEU (5.2%減)、輸出・輸入合計では259万TEU (5.2%減) となっています。国別にみると、輸出では、上位3か国 (中国、タイ及び韓国) の取扱いが減少したほか、輸入では、前年第4位のカナダが、前年比44.4%の大幅減で第7位に後退するなどしています。

内貿コンテナ個数は、移出が11万TEU (2.0%増)、移入が19万TEU (11.3%減)、移出・移入合計では30万TEU (6.7%減) で2年ぶりの減少となっています。

図15 コンテナ個数の推移



横浜港のコンテナ取扱個数（289万TEU）は、東京港（486万TEU）に次いで14年連続で第2位となりました。主要5港では、横浜港のほか、神戸港が前年の実績を下回っています。

図16 主要港別コンテナ個数

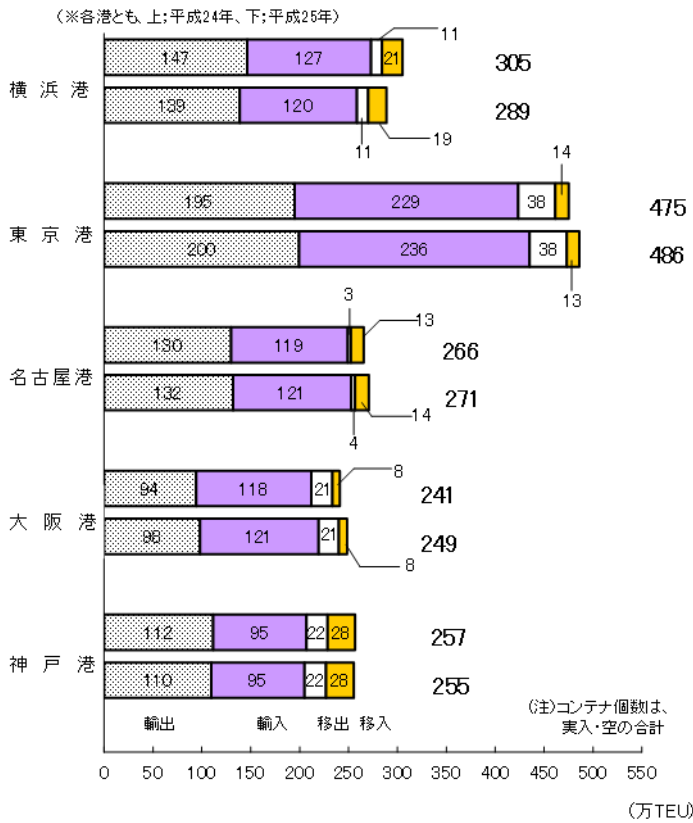
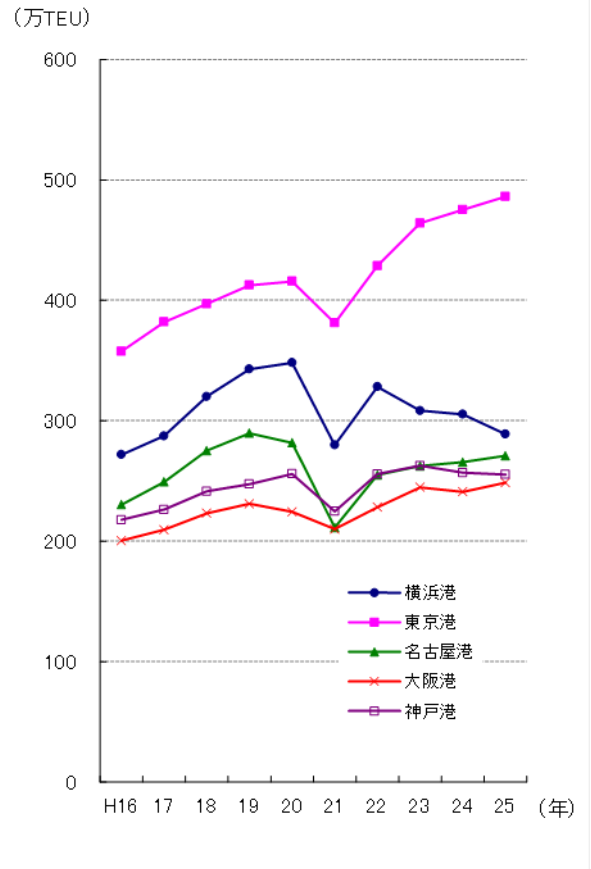


図17 主要港別コンテナ個数の推移



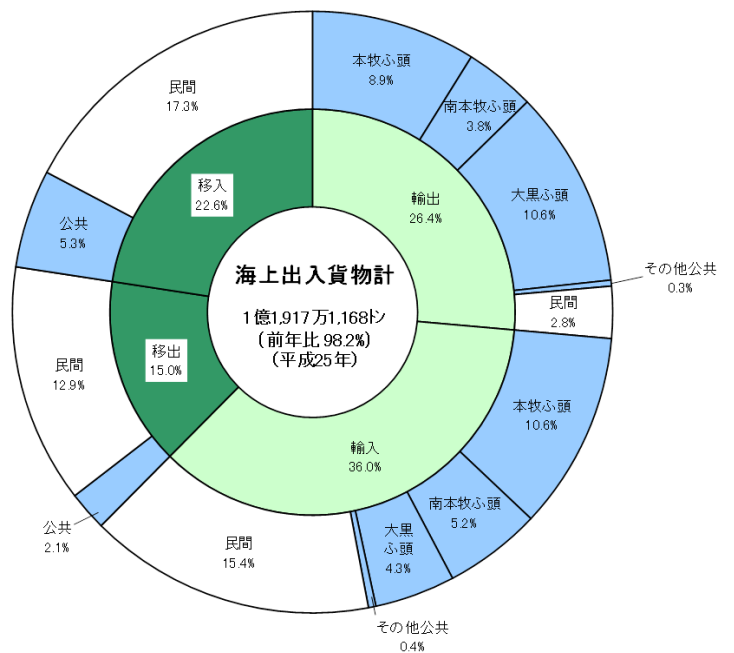
### 3 施設別取扱貨物量 【P28～30】

総貨物量1億 1,917 万トンに占める公共施設の取扱貨物量は 6,153 万トン（3.8%減、構成比 51.6%）、民間施設は 5,764 万トン（0.4%増、構成比 48.4%）となりました。

これを、外貿・内貿別に比較すると、外貿貨物は公共施設での取扱量が 5,271 万トン（4.6%減、構成比 70.8%）で、全体の約7割を占めており、同施設取扱第1位は「本牧ふ頭」で 2,325 万トン（6.4%減、構成比 31.2%）となっています。

一方、内貿貨物は民間施設での取扱量が 3,594 万トン（3.4%増、構成比 80.3%）で、全体の約8割を占めています。

図18 施設別取扱貨物



※ 公共（本牧、南本牧、大黒、その他公共）は、横浜市及び横浜港埠頭株式会社所有する施設。